

## 令和5年度 長岡森館の調査について

畠山 昂大（美郷町教育委員会生涯学習課）

### 1.遺跡の情報

遺跡名：長岡森館（ながおかもりだて）

所在地：美郷町金沢字西長岡森地内

（長岡森丘陵地の南西部、中ノ目川北岸に位置する標高90mの独立丘陵上にある）

現況：山林・私有地

### 2.調査の概要

調査面積：約30㎡（トレンチ2カ所）

調査主体：美郷町教育委員会

調査期間：令和5年10月3日～11月13日

### 3. 調査経緯

美郷町では平成25年度（2013年度）から横手市と連携し、後三年合戦を核とした観光交流や歴史検証を行う事業を始めました。

この事業は、次の2つからなります。1つは、関連遺跡が分布する可能性が高い、町の東側の山麓部の詳細分布調査。もう1つは、町内に残る清原氏の歴史・伝承を学習する団体「後三年合戦みさとプロジェクト」の設立と活動です。特に、町の詳細分布調査については、これまで平野部でのほ場整備に係るものがほとんどで、山麓部では調査が行き届いていない状況でした。一方、その山麓部では近年、山林の間伐をはじめとする開発行為の問い合わせが相次いでいます。町では後三年合戦関連遺跡の調査を通じて、こうした事態にも対応できると考えております。

長岡森館は、平成27年（2017年）に美郷町金沢地区の独立丘陵を踏査したところ、発見されました。地形の特徴から、遺跡内の一部を下刈りし、専門家に縄張図作成を依頼したところ、空堀・土橋の跡が残る単郭周壕型の城館跡であることが判明しました。ただ、長岡森館がいつの時代の遺跡なのかは不明であり、町では後三年合戦に関連する城館跡の可能性も検討しつつ、試掘調査を開始しました。

### 4.調査成果

有識者の意見を基に、踏査や縄張図、地形測量図から城館跡としての構造が不明な箇所を絞り、令和5年度は空堀跡付近に2カ所のトレンチ（1トレンチ：1.5m×11.5m、2トレンチ：1.0m×7.0m）を設定しました。1トレンチは空堀跡の埋土状況の把握、2トレンチは1トレンチの埋土状況を基に1トレンチで見つかった空堀跡が2トレンチの方向に向かって続いているかどうかを確認するために、試掘調査を行いました。

調査の結果、今後の資料となる基本土層および地山面の確認をすることができました。1トレンチでは空堀跡を検出し、上幅が2.5m・下幅が1.2m・深さは0.7mを図り、埋土は地山由来の土が堆積していることがわかりました。また、この空堀跡を挟んだ北側と南側からは盛土層が見つかりました。この盛土層は北側・南側とも空堀に向かって崩れるように堆積しており、また空堀と基盤層との境にあたる土層からは炭化物をわずかながら検出しました。2トレンチでは中央部分から、埋土時期を2つに分層できる整地層を検出されました。この整地層は、埋土中で見つかったSKP09柱穴様ピットの確認面（Ⅰ期）、SKP06・07・08・10柱穴様ピットが見つかった地山面に近い確認面（Ⅱ期）の2時期です。なお北側断面で検出したSKP09柱穴様ピットは、Ⅰ期の土色と同じでした。また、1トレンチで見つかった空堀跡と思われる落ち込みは、2トレンチでは見つかりませんでした。

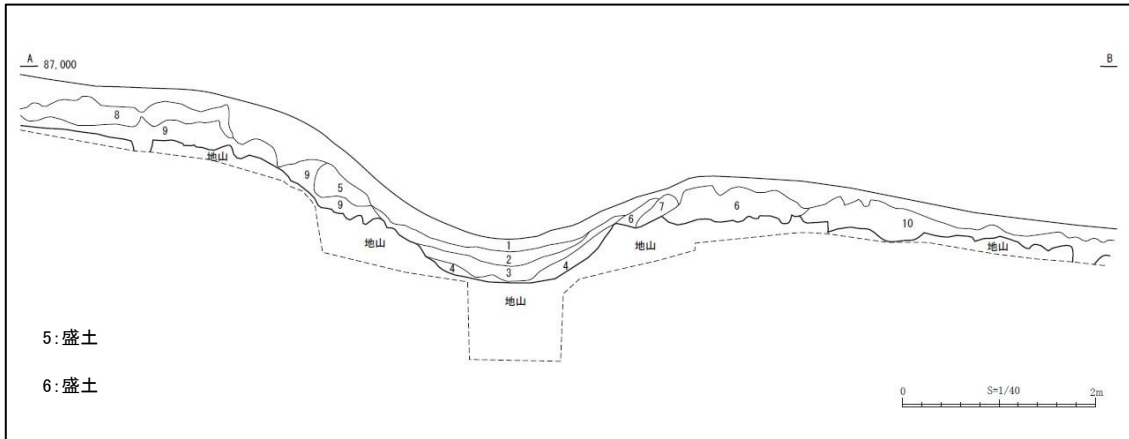
今回の調査を踏まえて、長岡森館が埋土状況から何らかの拠点として人工的に造成された場所であること、長岡森館の空堀が周囲に張り巡らされたものではないことがわかりました。

1トレンチは本来の斜面を、人為的に地山面まで削平後に掘土を盛り上げているため、盛土の堆積は一定的ではないと考えています。2トレンチは1トレンチとは反対に、人為的に整地したため、土層がほぼ直線状に堆積していた部分が見つかったと考えております。空堀については1トレンチで検出しましたが、2トレンチでは検出しなかったため、1トレンチから直線状に空堀が走っていた可能性があります。

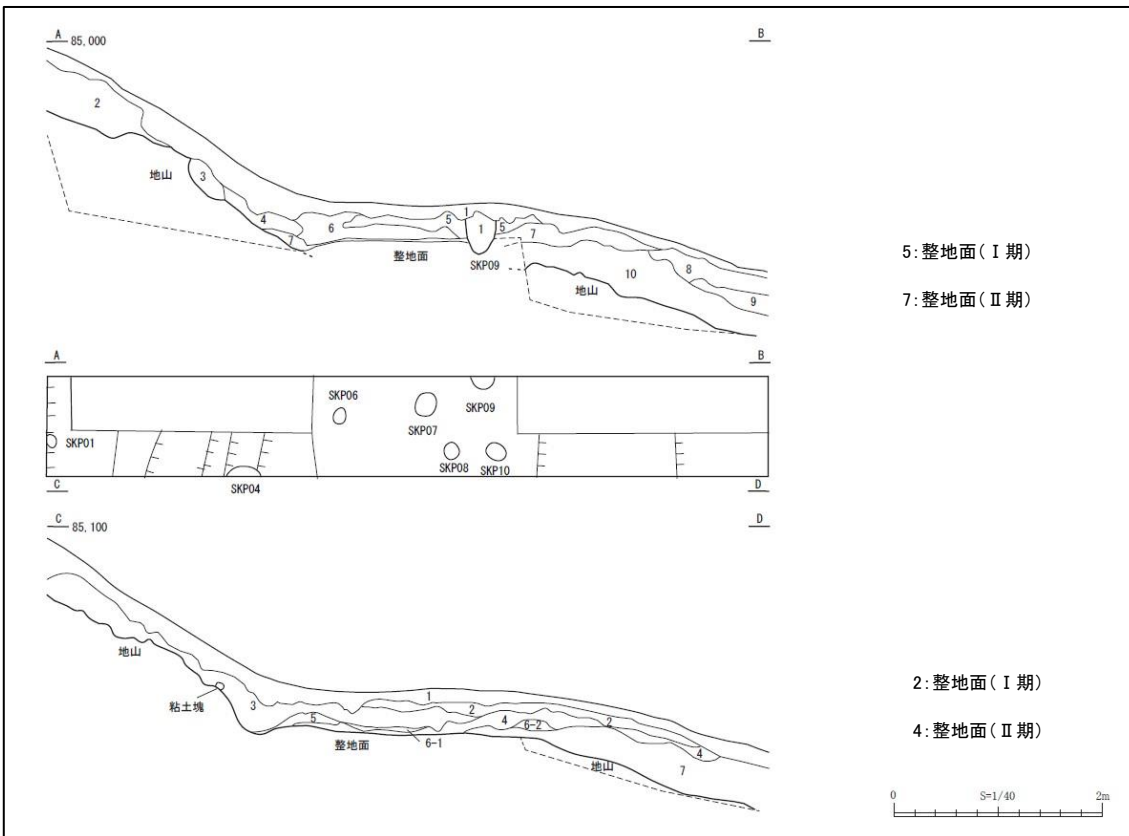
長岡森館では今年度の調査で遺物が出土しなかったことから、来年度以降は時期の特定を目的に、平坦部の調査を実施したいと考えております。



第1図 長岡森館地形測量図とトレンチ位置図（東→）



第2図 1 トレンチ断面図 (北→)



第3図 2 トレンチ断面図 (東→)